

## ○アドパフェロン皮下注 [注] 【製造中止】

【重要度】★★★【製造中止】 【一般製剤名】 インターフェロンアルファコン-1 (遺伝子組み換え) (U) interferon alfacon-1 【分類】 遺伝子組み換えインターフェロン・ $\alpha$  製剤

【単位】 ○1200 万 IU/V, ▼1800 万 IU/V

【常用量】 1 回 1200~1800 万国単位

【用法】 連日又は週 3 回皮下投与

【透析患者への投与方法】 薬物動態に関する文献がほとんどなく不明 (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】 薬物動態に関する文献がほとんどなく不明 (5)

【特徴】 他の遺伝子組み換え型インターフェロン ( $\alpha$ -2a、 $\alpha$ -2b) に比し、抗ウイルス作用、細胞増殖抑制作用、NK 細胞活性化作用において蛋白量あたりの活性が高く、より少ない蛋白量で他のインターフェロン  $\alpha$  と同程度の有効性が得られる。Genotype1b 高ウイルス血症症例に高い CR 率と ALT 正常化率を示す。溶解不要の液剤でしかも液量の少ない皮下注射剤、ヒト血清由来アルブミンが含まれていないなどの特徴を有する。

【主な副作用・毒性】 発熱、全身倦怠感、食欲不振、頭痛、関節痛等のインフルエンザ様症状、間質性肺炎、抑うつ、自殺観念、自殺企図、脳出血、脳梗塞、敗血症、糖尿病、甲状腺機能亢進並びに低下の発症又は悪化、乾癬の発症又は悪化、肝障害、自己免疫性肝炎の発症又は悪化、自己免疫現象によると思われる症状・徴候 (溶血性貧血、潰瘍性大腸炎、関節リウマチ、SLE、重症筋無力症、多発性筋炎の悪化又は発症等)、高度の白血球減少・血小板数減少、心不全、心筋梗塞、消化管出血、網膜症、意識障害、せん妄、痙攣、末梢神経障害、顔面神経麻痺、注射部位の壊死、皮膚潰瘍など

【F】 84%以上 [サル, sc] (1)

【tmax】 6.0hr (1) 2' 5' OAS として 24hr,  $\beta$ 2 ミクログロブリンとして 24~36hr (U)

【代謝】 ヒトに関するデータなし (1)

【排泄】 ヒトに関するデータなし (1) 尿中回収率 91% [ハムスター, 168hr まで] (1) 【CL】 0.71~0.92mL/min/kg [サル, iv] (1)

【t1/2】 6~12hr (1)

【Vd】 74.1~125.3L/man (1)

【MW】 19429~19560

【透析性】 分子量が大きいため除去されにくいと思われる (1) PMMA や PAN 膜などでは吸着機序によって一部が除去されるかもしれない (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 一般的に TDM は実施されていない

【備考】 間質性肺炎、自殺企図について特に注意 (1)

【更新日】 20151209

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。